

2025年度(令和7年度)  
事業計画書

自 2025年4月1日  
至 2026年3月31日

公益社団法人日本ローイング協会

## [2025年度(令和7年度)事業方針]

今年度も「Japan Rowing Vision 2020」を基本方針とし、引き続き強化と普及の両輪を回し精神的に活動していく所存である。特にパリ2024オリンピック・パラリンピック（パリ大会）までの総括を踏まえた新たな強化方針のもと、2028年のロス大会および2032年のブリスベン大会までを見据えた次期強化戦略計画のスタートの年と位置付け、新強化プランの策定と推進に注力していく。一方で、財務基盤の立て直しも引き続き最重要課題と位置づけ、黒字を継続しながら早期の累積赤字一掃を目指し、健全な財務状況の下で活動していきたい。

### 1.「日本の地域社会でローイング競技の普及を図る」に関する事業

国内で楽しく安全なローイングの機会を提供することにより、ローイング人口の増大を図る仕組みの構築を継続する。また「パラローイング」に加え、ロス大会から正式種目に採用される「コースタルローイング」についても強化を含めた振興のため、都道府県協会ならびに全国ボート場所在市町村協議会との連携を強め、各地域における普及活動の支援に努める。また、スポーツ庁のeスポーツ推進の流れにもとづき、バーチャルインドアローイング大会を拡充しローイングの認知度を高める。

### 2.「ローイング選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」に関する事業

パリ大会を終え、従来重点強化種目と位置付けてきた軽量級が除外となり、一方でコースタル種目がロス大会より新たに加わる。今年度をローイング競技の転換点と捉え、オープン種目を軸に新たな強化戦略計画で臨む。一方で、自国開催である2026年アジア競技大会に関しては、実施種目に応じた強化も進める。また、中長期的視点に立ちジュニアからシニアまで持続可能な国際競技力向上に向け、J-STARプロジェクトの推進やエリートアカデミー事業への積極的な参画などタレント発掘育成事業の更なる充実と共に、アスリート育成パスウェイ「ローイング版FTEM」の構築に取り組む。

また、主催する大会においては監督・コーチの公認スポーツ指導者資格の取得を義務付けると共に、選手が生涯にわたってローイングを楽しみ、フィジカルリテラシーを身に付けられるような指導者の育成に取り組む。

### 3.「ローイングの全日本選手権大会およびこれに準ずる競漕会を開催する」に関する事業

今年度は、5月の全日本選手権をはじめとして12大会を本会主催大会として開催する。内2大会を「海の森水上競技場」で開催する予定だが、同会場による大会開催ノウハウの蓄積を継続すると共に、「する人」、「みる人」、「支える人」にとってより魅力ある大会となるように東京都や指定管理者とも緊密に連携しローイングのファンを増やしていきたい。

### 4.「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」に関する事業

今年度も公平な派遣選手選考を行い、シニア・U19・U23世界選手権を中心にワールドカップやワールドユニバーシティゲームスなど各世代の主要な国際大会に選手団を派遣する。

### 5.「ローイング競技の諸規則・諸規定の制定及びコース・競技用具の審査と検定」に関する事業

競漕規則については、国際ローイング連盟の改定に合わせ必要に応じて見直しを実施する。また、コースの新規・更新認定業務を都道府県協会や地元自治体などと協力して引き続き実施する。

### 6.「その他の重要な事業」

本会の喫緊の課題である財政基盤の再建を遂行するため予算管理の徹底と新たな収入源の確保に努め、既存収入源に関しても見直しと改善を行う。また、スポーツ団体ガバナンスコードについて

も実情的確な把握と改善に取り組み、ガバナンス強化を更に推進する。

## [2025年度(令和7年度)事業計画]

### 1. 競技本部関係事業

#### (1) 競漕大会開催ならびに競技者に関する事業

##### ① 競漕大会開催について

・今年度は主催大会として、以下の大会を開催する。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月22日(木)～25日(日)	第103回全日本ローイング選手権大会	東京都江東区 海の森水上競技場
6月7日(土)～8日(日)	第16回全日本マスターズレガッタ	長野県下諏訪町 下諏訪ローイングパーク
6月21日(土)～22日(日)	第75回全日本社会人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
7月26日(土)～27日(日)	第45回全日本中学選手権競漕大会	茨城県潮来市 潮来ローイングコース
8月1日(金)～5日(火)	第73回全日本高等学校選手権競漕大会	広島県福山市 芦田川漕艇場
9月3日(水)～7日(日)	第52回全日本大学ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月3日(水)～7日(日)	第65回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月6日(土)～7日(日)	第2回ジャパンオープンレガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
10月4日(土)～7日(火)	第79回国民スポーツ大会ローイング競技	滋賀県大津市 関西みらいローイングセンター
10月31日(金)～11月2日(日)	第66回全日本新人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
11月9日(日)	TOKYO2020 開催記念レガッタ	東京都江東区 海の森水上競技場
2026年 3月下旬	第37回全国高等学校選抜ローイング大会 JOCジュニアオリンピックカップ大会	静岡県浜松市 天竜ボート場

※全日本選手権大会は軽量級種目を含めて開催する。

##### ② インドアローイングについて

- ・昨年度再開したA大会(全国9ブロック)およびB大会を開催する。
- ・インドア大会の開催方法について検討する。

##### ③ 競技団体及び競技者について

- ・競技者規定に基づき、2025年度の競技団体および競技者の資格決定を行う。
- ・2025年度の競技団体、競技者登録を行うとともに、当該年度の登録状況を把握する。

#### (2) コース認定に関する事業

今年度は以下の更新認定と新たに申請のあったコースについてコース認定を実施する。

・2025年度認定期間満了を迎えるコース

都道府県	コース名	級	レーン	距離 (m)
岩手県	錦秋湖漕艇場	C	4	1,000
茨城県	潮来ローイングコース	B	6	1,000
千葉県	小見川ボート場	B	6	1,000
福井県	久々子湖漕艇場	B	6	1,500
静岡県	天竜市営ボート場	B	6	2,000
岐阜県	長良川国際ボートコース	A	10	2,000
兵庫県	加古川市立漕艇場	B	5	1,000
愛媛県	鹿野川湖ボートコース	C	6	1,000
熊本県	班蛇口湖ボート場	B	5	2,000

・2025年度新規認定見込み水域

群馬県、城沼 ※2029年度国民スポーツ大会開催予定地

青森県、大湊 ※2026年度国民スポーツ大会開催予定地

(3) 競漕艇の計測に関する事業

第79回国民スポーツ大会、第73回全日本高等学校選手権競漕大会および第37回全国高等学校選抜ローイング大会において競漕艇の計測業務を行う。

(4) 海の森水上競技場に係わる事業

①レガシー活用の観点から、今年度は同会場において「第103回全日本ローイング選手権大会」および「TOKYO2020開催記念レガッタ」(※普及委員会主管)を開催する。

②海の森総合型地域スポーツクラブとも連携し施設整備および運用システム構築を関係先と連携し確立する。

(5) 審判に関する事業

①審判業務

・今年度本会主催および主管大会に審判長はじめ審判員を派遣し、大会審判業務をより円滑に行う。

・強化委員会による日本代表選考レースに審判を派遣し審判業務を行う。

②審判員養成事業

・国スポ及びインターハイ等の地方大会において円滑な審判団編成のため、C級審判を現在の1,562名から1,700名に底上げを図る。

・審判員養成を目的に次の研修会と認定試験を行う。

研修会名称	開催時期	開催場所
第92回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	6月	埼玉県・戸田
第93回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10月	埼玉県・戸田
高体連主催研修	未定	オンライン併用

③国際大会への審判派遣…今年度は以下の国際大会に審判員を派遣する。

[World Rowing大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
World Cup 1	Varese, Italy	6/13-15	塚田秀樹	京都
World Rowing Masters	Banyoles, Spain	9/10-14	薬師寺朋美	東京
World Cup 2 (補欠待機中)	Luzern, Switzerland	6/27-29	田畑喜彦	愛知

[ARF大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
Asian Rowing Cup I & Masters Regatta	Samarkand, Uzbekistan	最終確認 待ち	成田泰久	東京
Asian Rowing Beach Sprint Championships	Pattaya, Thailand	8/6-10	吉野泰宏	東京
Asian Rowing Beach Sprint Finals	Zhoushan, China	9/11-14	山崎佳奈子	東京
Asian Rowing Cup 2	Shangrao, China	10/30- 11/1	塚田秀樹	京都
Asian Rowing Championship	Bhopal, India	11/26- 12/2	松田雅彦	神奈川

(6) 国際大会に関する事業

第20回アジア競技大会の準備を組織委員会と連携して実施する。

## 2. 強化本部関係事業

(1) 選手強化に関する事業

①基本方針

パリ大会を終えローイング競技を取り巻く環境は大きな変革期を迎えている。従来重点強化種目と位置付けてきた軽量級種目がパリ大会で打ち切りとなり、コースタル種目が2028年ロスアンゼルス大会より新たに加わることとなる。

本会では、これから10年後を見据えて大きな環境変化に対応するため『2024年パリ大会後の国際競技力向上に向けての強化総括』を実施し、まずは詳細に現状把握と解析を行い、そして次期強化戦略計画策定に向け方向性を示すタイミングとなっている。

2025年シーズンはとりわけその次期強化戦略計画のスタートの年であり新たな方針の下、パリ大会までの取り組みを継続しつつ、総括で明確となった改善すべき活動に関し見直しを進めていくことになる。

②具体的活動計画

1) ナショナルチーム及び所属団体における共通の強化メソッドの実施（共有と浸透）

・合宿入りの前に所属とミーティングを行い、トレーニングの内容を確認するなどナショ

ナルチームと所属間におけるトレーニング方法（強化メソッド）の共有化を図る。

## 2) 代表チームの識別

- ・前年度に続きナショナルチームにおいてA代表、B代表およびC代表の識別化を図り、A代表はオリンピック、アジア競技大会及び世界選手権へ向けた強化を、B・C代表は欧州インターナショナルレガッタやアジア選手権など次世代アスリートの育成を目的とした強化を行う。

## 3) オープン種目強化事業

- ・オープンカテゴリーでの持続的な成長を果たすトレーニングプログラムの確立や支援体制の整備などあらゆる角度で環境を整え、ナショナルチームとして成長し続けるための基盤整備をおこなう。

特に2026年にはアジア競技大会が自国開催となり、2025年から26年にかけてオープンカテゴリーでの継続的な強化プログラムの基盤確立と2028年ロスアンゼルス大会での成功の可能性を高めるべくプログラムを構築していきたい。

尚、アジア競技大会の種目が正式に確定次第、その種目に応じた強化策も検討したい。

## 4) サポートコーチ制度の更なる拡充

- ・所属団体からのサポートコーチを積極的に受け入れ、代表チーム及び所属チームにおける継続指導を実現する。
- ・次世代指導者育成という観点でも、サポートコーチ経験者の中から将来のナショナルチームコーチを育成していくことも視野に入れる。

## 5) コンディションに対する所属チームへのフィードバック

- ・所属団体に対しての選手のコンディションをフィードバックし、所属団体との連携を更に強化する。

## 6) 協会内組織連携

- ・アスリート、医科学、パラローイングなど各委員会との横断的な連携により、合宿や国際大会においてより快適なチーム環境を構築する。
- ・国際競技力向上に向けてアスリート育成パスウェイの再構築が急務であり、スポーツ庁、日本スポーツ振興センターが示す方針等を参考にしながらローイング版アスリート育成パスウェイの再構築を企画・戦略、普及、指導者育成、広報委員会等と連携し取り組みを展開している。パスウェイマップの更改と全ローイング関係者への周知と浸透を目指し推進していきたい。
- ・ロス大会で新種目となるコースタル種目については、さらなる環境整備が必要なことから、今後の強化推進体制なども含めてコースタル委員会と連携し検討していく。

## 7) 継続強化

- ・タレント発掘・育成事業を継続し高身長、高フィジカルな選手の発掘を目指す。
- ・U23選手へのサポートを拡充させるとともに、ジュニアからシニアへの一貫したアスリート育成パスウェイの構築、そしてメダルポテンシャルアスリート（MPA）、およびその予備軍であるポテンシャルアスリート（PA）制度の運用については改善を図りながら着実な推進に努める。

③強化合宿及び大会派遣計画について

【シニア】

事業	場所	期間
4月強化合宿	戸田ボートコース	4月7日(月)～13日(日)
6月欧州遠征 <u>ローイングワールド カップ</u>	フランス・エギュベレ ット  ヴァレーゼ・ イタリア  ルツェルン・ スイス	6月1日(日)～7月1日(火)  6月13日(金)～15日(日)  6月27日(金)～6月29日(日)
7-8月強化合宿	田瀬湖	日程調整中
9月強化合宿	海の森水上競技場	9月8日(月)～15日(月)
世界ローイング 選手権	上海・中国	9月21日(日)～28日(日)
アジアローイング選 手権	ボーパール・インド	11月26日(水)～12月2日(火)

【World University Games】

事業	場所	期間
4月強化合宿	戸田ボートコース	4月7日(月)～4月13日(日)
6月強化合宿	未定	6月3日(火)～6月22日(日)
7月強化合宿	未定	6月30日(月)～7月17日(木)
World University Games	デュイスブルク・ ドイツ	7月18日(金)～27日(日)

【U23】

事業	場所	期間
4月強化合宿	戸田ボートコース	4月7日(月)～4月13日(日)
6月強化合宿	未定	6月3日(火)～6月22日(日)
7月強化合宿	未定	6月30日(月)～7月17日(木)
World University Games	デュイスブルク・ ドイツ	7月18日(金)～27日(日)

【U19】

事業	場所	期間
SBS 本戦	海の森水上競技場	4月25日(金)～4月27日(日)
5月強化合宿	久々子湖漕艇場	5月8日(木)～5月12日(月)

6月強化合宿	久々子湖漕艇場	6月11日(水)～6月16日(月)
6月-7月強化合宿	未定	6月27日(金)～7月4日(金)
7月強化合宿	未定	7月22日(火)～7月27日(日)
U19世界選手権	トラカイ・リトアニア	7月28日(月)～8月12日(火)
8月強化合宿	未定	8月24日(日)～8月30日(土)
アジアジュニア選手権	瀋陽・中国	8月30日(土)～9月8日(月)

(注)強化合宿及び大会派遣計画については、各種助成金の採択結果および本会の財政状況によって変更する可能性がある。

## (2) タレント発掘、及び競技者育成に関する事業

### ①基本方針

#### 1) 海外育成拠点モデル事業

- ・ポテンシャルアスリートの育成に向け、有望なタレント育成選手の海外レース・合宿への派遣を積極的に行い、経験値向上を目指す。

#### 2) 国内育成モデル事業

- ・タレント育成選手の国内合宿をおこない幅広い強化を図る。

#### 3) 発掘育成拠点化事業

- ・ローイング選手の発掘・育成に向け国内拠点の整備と普遍的なシステム構築に向け全国各地における拠点化の整備を行う。

#### 4) 発掘モデル再構築事業

- ・アスリート育成パスウェイに沿ってトライアウト1次選考・2次選考を実施する。
- ・特に種目最適型タレント発掘事業について再構築を行う。

#### 5) JOCエリートアカデミー事業の継続

- ・アスリート育成パスウェイの重要な事業の一つとして活用し、修了生のフォローも継続して行う。

### ②具体的活動計画

#### 1) タレント発掘海外遠征計画

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
6月	フランス選手権	フランス	U21オープン・タレント
6月	BledInternational Regatta	ブレド・スロベニア	WUG・U23
7月	Henley Royal Regatta	ヘンリー・オン・ テムズ・イギリス	MPA
1～2月	海外合宿	調整中	MPA・PA

2) MPA (WUG・U23・U21) 強化育成合宿

実施月	実施事業	実施場所	対象選手
4月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	WUG・U23
6月	MPA育成合宿	未定	WUG・U23
7月	MPA育成合宿	未定	WUG・U23
11月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
12月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
1月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
2月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
3月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21

3) JOCエリートアカデミー (EA) 事業

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
12-2月	EA19期生育成合宿	埼玉県・戸田	EA候補生

4) 有望選手発掘事業

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
12月	有望選手発掘育成合宿	熊本県・菊池	有望選手候補
1月	有望選手発掘育成合宿	熊本県・菊池	有望選手
2月	有望選手発掘育成事業	埼玉県・戸田	有望選手

5) タレント育成合宿

実施月	実施事業	開催地	対象選手
4月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
5月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
7月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
8月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
11月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
12月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
1月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
2月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント

(3) 医科学に関する事業

医療従事者の確保し、円滑な大会運営医療業務、強化合宿、海外遠征および日常トレーニングに継続して貢献する。また、トレーナー部会を通じコンディショニングに関する啓発を行う。競技における各種の調査と分析を行い、競技発展のため提言を行う。

① メディカルサポートに関する事業

- ・本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権）に医師ならびに看護師、理学療法士を派遣し、大会医事業務を行う。
- ・国内強化合宿、海外強化合宿および海外大会へ、医師並びにトレーナーが帯同し選手のコンディショニング維持、改善および指導を行う。
- ・特にトレーナー部会においては、コンディショニングに関する知識を普及するため、指

導者と選手を対象に随時講習会を開催し、またホームページを利用した広報活動を行う。

② 高温時の大会開催におけるガイドラインの改訂に関する事業

・近年の気候変動により著しく気温が高くなっており、大会開催の大きなリスクとなっている。近年の高温化を踏まえて「大会開催時の安全に関するガイドライン（2018年版）」の改訂を目指し、体調不調者の要因の分析と防止策の検討を行う。

③ 競技用具の審査と検定に関する事業

・本会の規格艇登録規定に基づき、規格艇の審査および原簿登録に係わる業務を行う。

(4) 指導者育成に関する事業

日本スポーツ協会と共に、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできる公認スポーツ指導者を増やし、その質を高め、活躍の機会を広げることで誰もがスポーツに親しむことのできる社会の実現に貢献する。

① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（ローイングコーチ）養成事業

スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる公認指導者の人数増と質の向上を目指し、日本スポーツ協会助成事業による公認スタートコーチ、コーチ1、コーチ3、コーチ4養成講習会について以下の日程で講習会を開催する。

講習会名	開催日程	開催場所
公認コーチ4養成講習会	専門科目：2026年1月10日～23日	JSOS(調整中)
公認コーチ3養成講習会	前期：10月11日～13日 後期：11月22日～24日	長野県/諏訪湖漕艇場
公認コーチ1養成講習会	前期座学7月12日～13日 後期座学：8月16日～17日 実技①：10月25日～26日 実技②：11月15日～16日 実技③：12月6日～7日	座学：オンライン 実技①：青森県青森市 実技②：福岡県北九州市 実技③：大阪府/高槻市
公認スタートコーチ	各都道府県協会の希望により調整し、随時実施。 各20名以上で催行 数回開催希望	戸田、東海エリア、関西エリア 開催を予定
資格更新義務研修 および コーチカンファレンス	朝日レガッタ	瀬田漕艇倶楽部
	高体連主催研修	高体連
	都道府県ボート協会主催研修など	オンライン、リアル開催

② コーチカンファレンス、更新研修開催について

指導者の質を高め活躍の機会を増やすため各委員会や都道府県協会、各クラブなどと連携し、コーチカンファレンス、更新研修を開催する。

③ コーチ（テクニカル）部会の設置について

公認コーチ4やメディカル資格取得者、養成講座の講師などを中心としたデベロップメントの場を設け、コーチミーティングおよびコーチカンファレンスなどの講師として活躍できるよう構築する。

④ 次世代コーチ育成について

ナショナルチームの活動を通じて、トップアスリートのフィジカルリテラシー向上と将来のコーチ育成を目指し、強化委員会をはじめ各委員会が連携し、ナショナルチーム向け研修会やサポート事業等を開催する。また、学び意識の高いアスリートや若手ナショナルチーム経験者へのJ S P O公認コーチ取得に向けたサポートやナショナルチームのコーチインターンシップを実施する。

(5) アスリートに関する事業

以下事業を着実に実行し、アスリートの視点に立った提言及び関係事業へ参画する。

① トップアスリートの意見を集約し協会諸事業に反映

- ・各委員会より適宜諮問される諸事項についてアスリートの意見を集約し、アスリートファーストならびにアスリートの環境改善につながる提言を積極的に行う。
- ・強化合宿等の強化活動に関するアンケートを集約し、環境改善につながる提言を行う。

② 本会主催諸事業に協力しローイング競技の普及と発展に貢献

- ・ローイング競技ならびにアスリートの地位向上のため、広報活動や講演活動に積極的に参画する。
- ・スポンサー企業の協賛活動に積極的に参画する。
- ・サステナブルな社会に貢献するため、ローイング水域の自然環境を改善・維持する活動を安全環境委員会と協働して企画し、大会開催時等に実施する。

③ トップアスリートのセカンドライフの支援

- ・トップアスリートが引退後も継続的にローイング競技や協会の活動に携われるようサポートを行う。

### 3. 普及本部関係事業

(1) 普及に関する事業

① 既存クラブ活性化の支援

- ・各都道府県ローイング（ボート）協会および全国ボート場所在市町村協議会と連動し、全国主要水域のローイング普及環境の整備の一助とする。

② ジュニア層のローイング人口増及び活動支援

- ・中学生および高校生のローイング競技振興を図るため、全国中学校ローイング連盟および全国高等学校体育連盟ボート専門部の活動に対し、助成金交付と支援を継続して行う。
- ・特に中学生のローイング人口拡大に向けたアプローチを重点的に実施する。

③ TOKYO2020開催記念レガッタの開催

- ・普及およびレガシー活用を目的として、海の森水上競技場で11月に開催する。

④ 全国ボート場所在市町村協議会との協力関係推進

- ・協議会主催会議並びに行事に積極的に参加し、協議会との関係強化を図る。

⑤ オリンピアン・パラリンピアンへの会に関する活動

- ・JSC助成事業として、ローイング競技普及を目的に「エルゴチャレンジ」を海の森水上競技場他で開催する。

⑥ バーチャルインドアローイング大会の実施

- ・幅広くローイングに触れてもらう機会創出を目的に2月に開催する。

(2) 広報に関する事業

ローイング機会拡大とローイング人口拡大に向け、広範に適時適切な情報発信を行う。

① より魅力的な協会広報誌「ROWING」の発行

- ・本会機関紙「ROWING」を6回発行する。同時に内容の刷新と編集経費の見直しを図る。

② 本会ホームページの改善とSNSの活用

- ・タイムリーな報告と強化関連を中心に掲載情報量のアップを図る。
- ・より見やすく、検索しやすく、発信しやすいとの観点から改善に向けグランドデザインを検討・刷新する。
- ・Facebookの活用に加え、その他SNSメディアの活用を検討、実施する。

③ 報道機関、マスコミへの対応と協力

- ・普及およびスポンサー獲得のため、メディア露出を目的とした情報配信をより積極的に行う。
- ・東京運動記者クラブはじめ各報道機関ならびに出版業界との関係を密にし、協会体制およびコースタルローイング等のタイムリーな情報発信に努め、報道を通じて本会の活動の広報に取り組む。

(3) 安全環境に関する事業

以下の活動を通じて、ローイングの安全と環境保全に対する意識付けを継続して行う。

① 主催大会における救助業務

- ・本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権）において施設委員会、審判委員会、医科学委員会、関東漕艇学生連盟と連携し救助業務を行う。
- ・講習会等も企画し連携力強化を含めたスキルアップにも取り組む。

② セーフティアドバイザー研修の実施

- ・全国のSAに対するオンライン会議の活用によるレベルの均質化を図る。
- ・研修会の実施

事業名	開催日程	開催場所
セーフティアドバイザー研修	12月	埼玉県・戸田市 & オンライン

③ 各地での安全活動支援とローイング水域の環境整備

- ・インシデントレポート掲示板に集まった事例展開等を通じ、各地での安全活動に対する意識向上を図る。
- ・2024年度に改定した「安全マニュアル」の販売促進を通じ各地の安全活動支援につなげる。
- ・サステナブルな社会に貢献するため、ローイング水域の自然環境を改善・維持する活動を企画・サポートする。

④ 環境保全の意識付け推進

- ・ 昨年実施したクリーンウォータープロジェクトの流れを今後につなげるための各種活動を工夫し検討していく。

#### (4) コースタルローイングに関する事業

2028年のロス、その後の2032年のブリスベンまで見据え、コースタル中長期強化戦略計画のスタートの年と位置付け、コースタル種目の特徴に適應する強化プランを推進していく。

##### ① コースタル・メダル・ポテンシャル・アスリート (CMPA) 強化事業

- ・ CMPA認定選手 (指名ユニットのコーチ、ハンドラー含む) の国内強化合宿、海外強化合宿、国際大会派遣を強化委員会とともに実施していく。

##### ② 強化インフラ事業

- ・ 国際的指導者育成プログラムを指導者育成委員会とともに推進していく。
- ・ 国際的標準艇 (C1x) を配備する。
- ・ 国際的情報分析活動 (国内外視察含む) を実施する。

##### ③ U19タレント発掘事業

## 4. パラローイング本部関係事業

### (1) 基本方針

- ・ パラローイングの国内における普及拡大と、パラローイング事業基盤を構築する。
- ・ 2025世界ローイング選手権にてB決勝以上の成績を目指す。

### (2) 基本計画

- ・ 国際競争力を強化し世界選手権でのB決勝以上の成績を目指す。
- ・ 競技ができる施設・機材の整備 並びに体験できる機会の創出を推進し競技の普及を図る。
- ・ J-STAR 等による選手発掘に努め、指定選手数を拡大する。
- ・ コーチ、スタッフの増員により、サポートを拡充する。

### (3) 具体的活動

#### ① 国内合宿

実施月	事業名	開催予定地	対象選手
4月	4月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
5月	5月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
5月	ワールドカップ 直前合宿	東京都・海の森水上競技場	ワールドカップ 参加クルー
6月	6月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
7月	7月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
8月	8月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
8月	世界選手権直前合宿	米子市・錦海ボートコース	世界選手権参加クルー
9月	9月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
10月	10月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
12月	12月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
1月	1月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
3月	3月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手

## ②国際大会派遣

以下の国際大会に選手団を派遣する。

派遣期間	大会名	開催地
6月	ワールドカップ ヴァレーゼ大会	イタリア・ヴァレーゼ
9月	2025世界ローイング選手権	中国・上海

## ③乗艇体験会の実施

- ・普及活動として、神奈川県相模湖漕艇場等において乗艇体験会を実施する。

## 5. 企画管理本部関係事業及び独立委員会事業

### (1) 国際関係事業

#### ① World Rowing および ARF 総会への代表者派遣

- ・各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため下記総会へ代表者を派遣する。

会議名	会議日程	開催国・会場地
国際ローイング連盟(WR)通常総会	未定	未定
アジアローイング連盟(ARF)総会	未定	未定

#### ② 国際交流事業

- ・東京五輪及びレガシー施策を通して構築した World Rowing や海外協会との関係性を深化、連携強化をはかり、国内ニーズにマッチした新たな国際交流事業を立案/構築する。

#### ③ 国際人材養成事業

- ・JOC が主催する国際人養成アカデミーに人材を派遣し、日本ローイングコミュニティから、継続的に国際連盟ポストを狙える人材の養成を再開する。

#### ④ 国際大会開催支援

- ・2026年愛知名古屋アジア競技大会の開催に向け、公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会及び地元中部ボート連盟、愛知県ボート協会と連携し、開催に関する支援を実施する。

### (2) 財政基盤強化に関する事業

#### ① 助成金について

- ・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、戸田ボートレース事業者ならびにその他団体に対し本会の諸事業の重要性についての理解を求め、継続的な支援をお願いする。

#### ② 事業収入の見直しについて

- ・各種事業収入の単価を昨年度改定したが、その他の収入に関しても引続き見直しを検討して財政基盤の強化につなげる。

#### ③ マーケティング戦略の構築

- ・引き続きJOC/NFジョイントマーケティングに参加し、スポンサーと協賛金の獲得に努める。
- ・新ビジョンに基づき本会の事業価値を抜本的に見直し、マーケティング戦略の構築を目指すとともに、中期的な財務立て直し計画に貢献する。

#### ③ 情報プラットフォームの活用

- ・スポーツ庁の助成を得て構築した情報プラットフォームを活用し、「みる人」「する人」「支える人」を一元管理し、ローイングの価値向上を図る。

### (3) ガバナンス強化に関する事業

前回の加盟上部団体（JSP0、JOC、JPSA）による本会のガバナンスコードの適合性審査では、要改善事項の該当はなしとの結果であったが、より一層の体制強化を継続する。

#### ①公益法人に関する業務の推進

- ・公益法人として本会運営を行うために、必要な各種規定類の更なる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施する。

#### ②コンプライアンスおよびインテグリティの徹底

- ・強化の現場ならびに本会役職員に対するコンプライアンスおよびインテグリティ教育に関し、JOC等主催の研修会や講習会への参加による啓蒙活動を継続するとともに、本会内においても独自に研修の機会を設けて意識の徹底を図る。
- ・本会の「協会弁護士による研修会」制度を所属団体等に働きかけ継続する。

### (4) アンチ・ドーピングに関する事業

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が指定して行う国内大会におけるドーピング検査を受け入れるとともに、強化指定選手中心から対象を更に拡げ、アンチ・ドーピングに関する教育及び啓蒙の強化を図る。

#### ①ドーピング検査受入

- ・JADAが指定して行うドーピング検査を受け入れるとともに合わせてサポート業務を行う。

#### ②ドーピング防止啓発活動

- ・研修講師向け「クリーンスポーツエデュケーター資格」取得のための講習会を今年度より新たに実施する。
- ・強化指定選手（パラローイングを含む）を対象としたWEBによるアンチ・ドーピング研修会を実施する。
- ・U19およびU23代表選手へのアンチ・ドーピング研修会を実施する。
- ・各地域大会（朝日レガッタや国スポ地区予選など）においてアンチ・ドーピング研修会を実施する。
- ・アウトリーチ活動を全日本選手権、全日本新人、朝日レガッタ開催時に実施する。

### (5) 企画戦略に関する事業

- ・「新ビジョン」の推進・実現に向けて本会の現状分析と課題を整理し、各委員会と連携し中期事業計画の精査、軌道修正及び本会の長期的な方向性に関し戦略を提案する。
- ・スポーツ・インテグリティ、ガバナンス推進にむけ、その重要性を周知徹底する。
- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックのレガシー全般を推進する。
- ・海の森水上競技場におけるレガシー推進計画の企画・立案および関係先との調整を図る。
- ・スポーツ庁、独立行政法人日本スポーツ振興センターなど外部機関との連携を推進する。
- ・バーチャルローイング、eスポーツ推進に向けて情報収集及び研究を推進する。
- ・2026年アジア・アジアパラ競技大会に関する諸準備を推進する。

以上